

## 第2回浜松市ユニバーサルデザイン審議会会議録

日 時：令和3年8月26日（木） 午前10時～10時45分  
会 場：浜松市役所北館1階 101・102会議室（WEB会議システム「ZOOM」）  
出席委員：宮田圭介会長、飯野ホラン委員、石塚良明委員、倉橋千弘委員、田中佐和子委員、村松千香子委員、諸井宏司委員、吉林久委員  
欠席委員：松井章子副会長、横田みどり委員  
事務局：奥家章夫市民部長、新谷直幸UD・男女共同参画課長、河合多恵子課長補佐、森下昌和UD推進グループ長、鈴木政彰、刑部勇人  
傍聴者：なし ※報道関係者1名  
会議録作成者：UD・男女共同参画課 鈴木  
記録方法：発言者の要点記録（録音の有無：有）

---

### 《会議次第》

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議 事
  - (1) 第3次浜松市ユニバーサルデザイン計画（中間案）について
- 4 その他
  - (1) ピクトグラム選手権について
- 5 閉 会

---

### 《配付資料》

- ・資料 1：U・ゆうプランⅢ（案）
- ・資料 2：第3次浜松市ユニバーサルデザイン計画 体系図（案）
- ・資料 3：U・ゆうプランⅢ 第1期推進計画（案）
- ・ピクトグラム選手権チラシ

---

### 《会議の経過》

#### 1 開会 （事務局）

令和3年度第2回浜松市ユニバーサルデザイン審議会を開催する。

当審議会は、浜松市ユニバーサルデザイン条例第18条に基づき、浜松市のユニバーサルデザインの推進に関する調査、協議及び評価をする組織として設

置されているものである。

今回は、緊急事態宣言を受け、オンライン出席を含めて開催する。  
なお、本日は、松井委員、横田委員が都合により欠席である。

## 2 宮田会長挨拶

### 3 議事

#### (事務局)

次第の3「議事」に入る。議事に先立ち、当審議会は、「浜松市附属機関等の会議の公開に関する要綱」に基づき、公開会議とさせていただきます。

また、会議録作成のため、オンライン会議の様子を録画させていただきますが、それ以外の目的で録画を使用することはない。

会議録は事務局で作成するが、事前に確認いただいた後、「浜松市附属機関等の会議録の作成及び公開に関する要綱」に基づき、発言された委員の名前を記載の上、公開することを了承いただきたい。

議事進行の前にお願ひがある。発言する際には、手を挙げて、議長の指名を受けて、オンライン出席者においてはマイクをオンにして、初めに氏名を言ってから発言をお願いしたい。発言後、マイクをオフに戻し、カメラはオンのままにしておくこと。

それでは、これからの議事進行については、浜松市ユニバーサルデザイン審議会運営要綱第4条の規定により、議長は会長が務めることとされているため、会長をお願いしたい。

#### (1) 第3次浜松市ユニバーサルデザイン計画（中間案）について

##### 事務局より

(資料1) U・ゆうプランⅢ（案）

(資料2) 第3次浜松市ユニバーサルデザイン計画 体系図（案）

(資料3) U・ゆうプランⅢ 第1期推進計画（案）

##### について説明

#### (宮田会長)

事務局からの説明について、意見があればお願いしたい。

#### (田中委員)

資料3の事業No.31の「一人一人の状況に応じた多様で柔軟な教育の充実」について、新たに掲載事業で取り上げていただきありがとうございました。文

言の中で、「児童生徒一人一人にタブレット端末、ICT環境を整備し」とあるが、これから何年かの計画のうちに、ICT環境の整備が急ピッチで進み、「整備し」というよりは、整備に伴ってさらにその後の教育支援の充実ということを重点に置いていかなければいけないと思う。

**(事務局)**

これはGIGAスクール構想に基づく教育委員会の事業で、今年度中には、1人1台の端末、タブレットの配置が終了予定のため、「整備し」というよりは、整備に伴ってさらに教育支援内容の充実という表記に改める。

**(吉林委員)**

「インクルージョン」という言葉が突出した感じで理解しがたい。資料2を見ると説明があり、UDの概念としては的確な表現だと思うが、「みんなの参加を推進する」というような、言葉を変えて、括弧書きで添えると馴染むのではないか。

**(事務局)**

元々このインクルージョンという言葉は馴染みの薄い言葉ということで、括弧書きで「(多様な人材が活躍できる社会)」という言葉を入れていたが、その一つ下の体系にも「多様な人との交流」とあるので、省略する形とさせていただいた。「みんなが参加できる」とか、「みんなの参加を推進する」等の言葉に再考したいと考えている。

**(吉林委員)**

これを契機に「インクルージョン」という言葉を広めるのも良い。

**(事務局)**

「インクルージョン」という言葉も残して検討するようにする。

**(諸井委員)**

事業No.52の「公共建築物等のUD化」に関わることか分からないが、建物のUD化は当然必要なところだと思うが、例えば、「サーラ音楽ホール」のような遠隔地にできた施設に対して、イベント等が開催されるときに交通弱者の方が公共交通を使って行けるように、その施設に対して行くまでの仕組みづくり等、特に「サーラ音楽ホール」は、出来たばかりでもあるので、実際に利便性

がどうどうなっているか、施設までのアクセスのUD化も重要な要素だと思った。

**(事務局)**

都田の「サーラ音楽ホール」については最近、開館イベント時に、試験的に遠州鉄道浜北駅からシャトルバスを運行したと聞いている。しかし、周知があまり出来ていなかったようで、実際の利用者が少なかったと報告をされている。施設等の利便性等もあると思うが、郊外に出来ている施設等にどのようにアクセスするか、そういった問題等もUDに関しては、重要な観点だと思う。こういったものが事業化の中に落とし込めるか見つけ直し、担当してる部署とヒアリングして検討したいと思う。

**(村松委員)**

事業 No. 24「地域のUD情報発信」に関して、地域の文化観光施設やトイレ等のユニバーサルデザイン情報を収集することになっている。詳細な計画まで分からないが、集めた情報に関して、オープンデータ化をお願いしたい。事業 No. 26 の「子育て情報発信事業」の方は、私どもが関わっており、オープンデータという誰もが使えるデータというものをサイト内へ有効活用していく計画で今の整備を進めている。公園のトイレ等の情報が、オープンデータ化になっていけば大丈夫だが、取り入れていただきたい。

**(事務局)**

事業 No. 24 は観光シティプロモーション課が主管課となり、ヒアリングしているが、オープンデータ化については確認していない。オープンデータ化というご意見があったことも併せて伝え、そういった方向に向けて事業ができるように働きかけたい。

**(奥家市民部長)**

ただいまのご指摘、非常に重要なご指摘と考えている。全 57 事業が上がっているが、情報に関する事業はたくさんあり、情報を取り扱う事業に関してオープンデータ化は、基本的に当然のように取り組んでいくものと認識すべきと思う。本市はデジタルファースト宣言によりデジタル化を強力に進めていることもあり、情報に関するもの、また、情報発信に関するものについては、各所管課に対してオープンデータ化していく前提で進めるという認識で、計画を立てていただくように改めてお願いしていききたいと思う。

**(事務局)**

オープンデータ化に取り組むべきであるので、情報は全てオープンデータ化の方向で努めていく。

**(田中委員)**

「ひと」のところで、例えば、5 ページの事業 No. 9 「心のユニバーサルデザイン (思いやりの心)」と表記されているが、No. 3 と No. 13 も「思いやりの心」と載っており、「思いやりの心」を、「心のユニバーサルデザイン」として捉えるならば、一貫して表現した方が良いと感じた。

**(事務局)**

対象としている事業の所管課とヒアリングを行ってきているが、もう少し整理が足りない状況なので、文言の整理、言葉の表記の仕方を含め、整理をさせていただきたい。

**(田中委員)**

教育の分野では、「思いやりの心」を「心のユニバーサルデザイン」と表現したことが無く、視点が違うと捉え方が違うと思う。浜松市のユニバーサルデザインとして「思いやりの心」の表現は統一して、周知していくのも良いと思う。

**(倉橋委員)**

非常に立派な計画だと思う。着実に推進していただきたい。

**(石塚委員)**

事業 No. 50 のピクトグラムについて、この内容だけを見ると教育的な展開が中心となっている印象を受ける。観光では、他の地域に行くと、その地域独自のピクトグラムなどを使って唸らせられるときがある。教育的なところだけではなく、もっといろんな人たちが、楽しんで、工夫していけるような動きを作るように展開していただけるとありがたい。

**(事務局)**

ピクトグラムは、オリンピックの開会式で、非常に注目を浴びるものになった。ピクトグラム選手権は、小中学生を対象にピクトグラムを知っていただくということで取り組んでいる。山形県庁では独自のピクトグラムとして「花笠音頭」や「さくらんぼ」等を県の職員が作って、観光発信に役立てていくと

いう新聞記事が掲載されていた。本市においても、昨年実施したピクトグラム選手権で小学生最優秀賞の「本を大切に」というピクトグラムが、市立の図書館で実際に使われているという事例もある。ピクトグラムが注目を浴びているところを契機として、もう少し発信できるようにしていきたい。ここで課題になるのは、実際に使うものは、JIS 規格に則る必要があるため、この域内だけで使う意味があるか、それはルールとしていいのか、そんな議論もよく言われる。しかしながら、山形県もやっていることなので、浜松市内でもこんなピクトグラムがあると非常に役立つというようなものを、小中学生向きではなく、大人を対象とした事業として取り組みたいと考えている。

#### **(奥家市民部長)**

数日前に課長と、ピクトグラム選手権については、ぜひ大人版をやりたいという話をした。小学生たちが作るほのぼのとしたピクトグラムは、また広めていきたいと思っている一方で、デザイン性を少し重視したもので、高校生以上の年齢の高い層から、テーマを絞って、こんな内容をピクトグラムにしたいが、どんなデザインができるか、大人版のピクトグラム選手権の話をした。ぜひ、事業化に向けて進めたいと思う。

#### **(飯野委員)**

事業 No. 40 の「やさしい日本語の活用推進」について、日本のマナーや文化も含めると、より外国人にとって役に立つと思うので、詳しいところは分からないが、検討していただけるとありがたい。

#### **(事務局)**

やさしい日本語については、多文化共生社会ということで、外国人対象もあるが、難しい漢字があったり、表現が難しくコミュニケーションがうまくできなかつたりする日本人にも対応するもので、従来から実施しているが、1 事業として抜き出した。多文化共生の事業の方も継続して載せている。例えば、事業 No. 33 の「多文化共生センター事業」では、いろいろな外国人の方に対する文化についても、UDの中で取り扱っていきたいと考えている。

#### **(吉林委員)**

事業 No. 48 「共助型地域交通等推進モデル事業」について、交通空白地域が多く、いろいろ交通手段を考えている中で、自家用車での共助型交通の導入という表現があるが、これはどういう意図のものか。

**(事務局)**

デジタル・スマートシティ推進本部の事業で、公共交通の維持が困難な地域において、地域バスが運行されているが、それに代わる仕組みとして、住民が主体で運行管理し、自家用車所有者がドライバーとなり、賃金をもらい運転手を勤めるような、新しい地域交通を目指すものである。まだ具体的なものではなく、今年度から、春野や庄内をモデル地区に選定して、地域住民の方と話をしながら進めている。賃金など、具体的なことはまだ決まっていない。これから地域住民と話し合い、住民主体の地域交通のあり方を進めていきたいと聞いている。

**(宮田会長)**

本件について了承する。

**4 その他**

**(1) ピクトグラム選手権について**

**5 閉会**